※令和４年度以降入学生用

学校番号	313

令和5年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「新選歴史総合」（東京書籍）						
副教材等	「明解歴史総合図説シンフォニア」（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史を「なぜ」という疑問を持ちながら見る。
・地域の歴史や生活文化など身近な歴史に触れる。
・過去のわが国の歴史を踏まえながら、現在の日本の在り方を考える。

2　学習の到達目標

①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通し，我が国の歴史についての理解，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 ○諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりすることができる。	○近現代の歴史に関わる諸事象について，『なぜ』という視点を持って学習に取り組もうとしている。 ○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとしている。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通し，我が国の歴史についての理解や，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第2章　近代化と私たち	**1 節　近代化への問い** **2 節　結び付く世界と日本の開国** 1. 18 世紀の東アジア 2. 結びつくアジア諸地域 3. 18 世紀のヨーロッパとアジア 4. 産業革命のはじまり 5. 世界市場の形成 6. 東アジアの国際関係の変化と日本の開国 7. 世界経済の変化と日本の産業革命	a: 18 世紀のアジア諸国における経済活動の特徴や，アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的･多角的に考察し，表現することを通して，18 世紀のアジアの経済と社会を理解することができる。 b: 産業革命の影響，中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目し，アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的･多角的に考察し，表現することができる。 c:18 世紀のアジア諸国と欧米諸国との関係を多面的･多角的に考察をし、問いに対する自分の考えを成文化したり、他者と共有しようとしたりする姿勢を見せている。	･定期考査	･定期考査 ･ワークシートの記入	･ワークシートの記入 ･パフォーマンス課題への取り組み ･グループワークでの取り組み
		3 節　国民国家と明治維新 1. 市民革命と近代社会 2. 自由主義とナショナリズム 3. アジアの諸国家とその変容 4. 明治維新と東アジアの国際関係 5. 立憲制の広まり 6. 帝国主義と植民地 7. 日清戦争と華夷秩序の解体 8. 帝国主義諸国の競合と国際関係 9. 植民地支配と植民地の近代 10. 20 世紀初めの世界 **4 節　近代化と現代的な諸課題**	a: 国民国家の形成の背景や影響などに着目して，政治変革の特徴，国民国家の特徴や社会の変容などを多面的･多角的に考察し，表現することを通して，立憲制と国民国家の形成を理解することができる。 b: 帝国主義政策の背景，帝国主義政策がアジア･アフリカに与えた影響などに着目して，帝国主義政策の特徴，列強間の関係の変容などを多面的･多角的に考察し，表現することができる。 c: 近代国家の在り方や帝国主義政策が世界に与えた影響について多面的･多角的に考察をし、問いに対する自分の考えを成文化したり、他者と共有しようとしたりする姿勢を見せている。			

※令和４年度以降入学生用

2学期	第3章　国際秩序の変化や大衆化と私たち	**1節　国際秩序の変化や大衆化への問い** **2節　第一次世界大戦と大衆社会** 1. 大衆社会の時代 2. 第一次世界大戦の展開 3. 国際協調体制の形成 4. ソヴィエト連邦の成立と社会主義 5. アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会 6. アジアの経済成長と移動する人々 7. 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 8. 民主主義の拡大と社会変革の動き 9. マスメディアの発達と日常生活	a: 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目し，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的･多角的に考察し，表現することを通して，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解することができる。 b: 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して，第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的･多角的に考察し，表現することができる。 c: 第一次世界大戦中の世界情勢の変化について多面的･多角的に考察をし、問いに対する自分の考えを成文化したり、他者と共有しようとしたりする姿勢を見せている。	･定期考査 ･定期考査	･定期考査 ･ワークシートの記入	･ワークシートの記入 ･パフォーマンス課題への取り組み ･グループワークでの取り組み
		3節　経済危機と第二次世界大戦 1. 世界恐慌 2. アジア･アフリカと大衆社会 3. 国際協調体制の崩壊 4. 日中戦争と深刻化する世界の危機 5. 第二次世界大戦の勃発 6. 第二次世界大戦における連合国と戦後構想 7. アジア太平洋戦争と日本の敗戦 8. 連合国の占領政策と冷戦 **4節　国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題**	a: 経済危機の背景と影響，国際秩序や政治体制の変化などに着目して，各国の世界恐慌への対応の特徴，国際協調体制の動揺の要因などを多面的･多角的に考察し，表現することを通して，国際協調体制の動揺を理解することができる。 b: 第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的･多角的に考察し，表現することができる。 c: 第二次世界大戦中の世界情勢の変化について多面的･多角的に考察をし、問いに対する自分の考えを成文化したり、他者と共有しようとしたりする姿勢を見せている。			

※令和４年度以降入学生用

３学期	第４章　グローバル化と私たち	**1節　グローバル化への問い** **2節　冷戦と世界経済** 1. 冷戦の拡大と第三勢力 2. キューバ危機と核兵器の管理 3. 脱植民地化の進展と地域紛争 4. 計画経済と開発 5. 冷戦下の日本とアジア 6. 日本と欧米先進国の経済成長 7. 地域連携の拡大 8. ベトナム戦争と冷戦構造の変容 **3節　世界秩序の変容と日本** 1. 問い直される近代 2. 石油危機と経済の自由化 3. アジアの経済発展と日本 4. 冷戦の終結と世界 5. 拡散する地域紛争 6. 民主化の進展 7. グローバル化と地域統合 8. 岐路に立つ世界と日本 **4節　国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題**	a: 地域紛争の背景や影響，冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して，地域紛争と冷戦の関係，第三世界の国々の経済政策の特徴，欧米やソヴィエト連邦の政策転換などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，国際政治の変容を理解する。 b: 冷戦が各国経済に及ぼした影響，地域連携の背景と影響，日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して，冷戦下の世界経済や地域連携の特徴，経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解することができる。 c:近現代日本と世界との関わりについて多面的・多角的に考察をし、問いに対する自分の考えを成文化したり、他者と共有しようとしたりする姿勢を見せている。	・定期考査	・定期考査 ・ワークシートの記入	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度